

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

図書室において、読書をする、しないに関わらず、誰もが安心して過ごせる「居場所づくり」を重点課題として推進した。季節の展示やクイズ、参加型ワークショップなど多種多様な企画を継続的に展開することで、普段図書室を利用しない生徒の心理的ハードルを下げ、日常的な来室を促すことに成功した。その結果、教室や部活動以外の「サードプレイス」として機能し、学年を超えた自然な交流も生まれた。

【取組2】(A中学校)

全校生徒が協働し、学校への愛着と一体感を深める「きずなづくり」を推進した。創作活動を通じた協調性の育成を目的に実施した。

本プロジェクトは、生徒会が主体となり、全校生徒を巻き込んで、学校の巨大ロゴを創造する取組として実施した。切り出したパーツをボンドやテープで接合する過程で、生徒同士が教え合ったり、協力したりする姿が多く見られた。クラスや学年を超えた共同作業を通じて、生徒同士のコミュニケーションが促進され、学校全体に「一つのものを作り上げた」という強い一体感が生まれた。



【取組3】(B中学校)

職業調べ(事前)、職業体験、新聞作成(事後)、仮想人生ゲーム「ライフプロデュース～自分らしい人生を叶える攻略法～」(事後)をそれぞれ実施した。

職場体験で「働く意義」について学んだことを生かし、生徒に自己決定の場、少人数グループによる協働学習と発表の機会を提供することで、自分自身の人生についてより考えを深める機会となった。

【取組4】(A中学校)

道徳教育では、対話活動を通じて生徒の相互尊重と多様性の理解を深めている。また、「キラキラ道徳通信」で生徒の学びや教員の実践を保護者や地域社会と共有することで、家庭や地域との連携強化を図っている。全教員による「実践中心」の道徳チームを組織し、学習指導案の共有や全員参加のミニワークショップを実施した。年度末には研究成果の発表会を予定している。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（C中学校）

ある生徒について集団不適應の行動に対する学校内での対応を協議するとともに、継続的かつ効果的な治療と支援を受けるための医療先との接続を検討した。当該生徒に困り感がなかったことで、これまで支援ができなかったが、当該生徒の今後の支援の方向性について会議で検討することができた。

アウトリーチによる支援（A中学校）

当該生徒の兄弟が支援者と良好な関係を築く様子を当該生徒が観察することで、他者に対する過度な警戒心が緩和された。このことにより、他者と関わることへの抵抗感が薄れ、社会的な接点をもつ契機となった。

校内別室における支援（B中学校）

生徒のニーズに応じて、校内別室を学習に集中するための「学習スペース」と他者との交流やリラックスをするための「コミュニケーションルーム」に分けた。



I C Tを活用し、個別最適化された学びを実現するための学習支援を行った。また、オンライン学習サイトを活用して学び直しができるよ

うな環境を整えた。

生徒の自己決定を尊重する運営を心掛け、自己選択と自己決定によるスケジュール調整を生徒自身が行えるようにした。

デジタル機器を活用した支援（A中学校）

生徒のアンケート結果から、悩み事があっても相談することができていない生徒が複数いることが分かったので、いつでも気軽に相談できる環境を用意した。その結果、相談することにハードルを感じていた生徒をS Cにつなげることができた。

関係機関との連携（A中学校）

S Cが学校外での面談希望を受けたが、学校外での接触ができないため、不登校対応巡回教員とS S Wが連携し、家庭訪問で対応した。今後は、オンライン面談ができる環境を整えていきたい。

成 果

アウトリーチによって、不登校生徒とのつながりができ、スモールステップでの伴走を行うことができた。その結果、生活リズムが改善し、不登校生徒の登校する日が増えた。

課 題

新規の不登校生徒数の削減のために、アンケート結果や小さな変化に対し、丁寧かつ迅速に対応する必要がある。